

# 第6回 幼児のコマンセンス研究会

2008.9.17

## 英語絵本の読み聞かせにおける 児童の理解・推測プロセス

1

佐藤久美子(玉川大学)

佐藤綾乃(玉川大学院生)

# 研究背景

- L1・L2を問わず、子どもの理解スキル研究が少ない
- 大学生ESL学習者の読みにおける理解プロセス
  - ・ 優れた読み手: スキーマから内容推測
  - ・ 不得意な読み手: スキーマを活性化できない
- Bensoussan(1992) 「ジグソー・パズル」的方略
- 英語母語児の場合
  - ・ McKeown(2001) (幼稚園児対象)
    - ・ 絵の特徴が内容理解に干渉・言語への注意不足
  - ・ Cain et.al.(2001) (7,8歳児対象)
    - ・ 理解力と推測能力は相関(統合不可)

# 研究背景

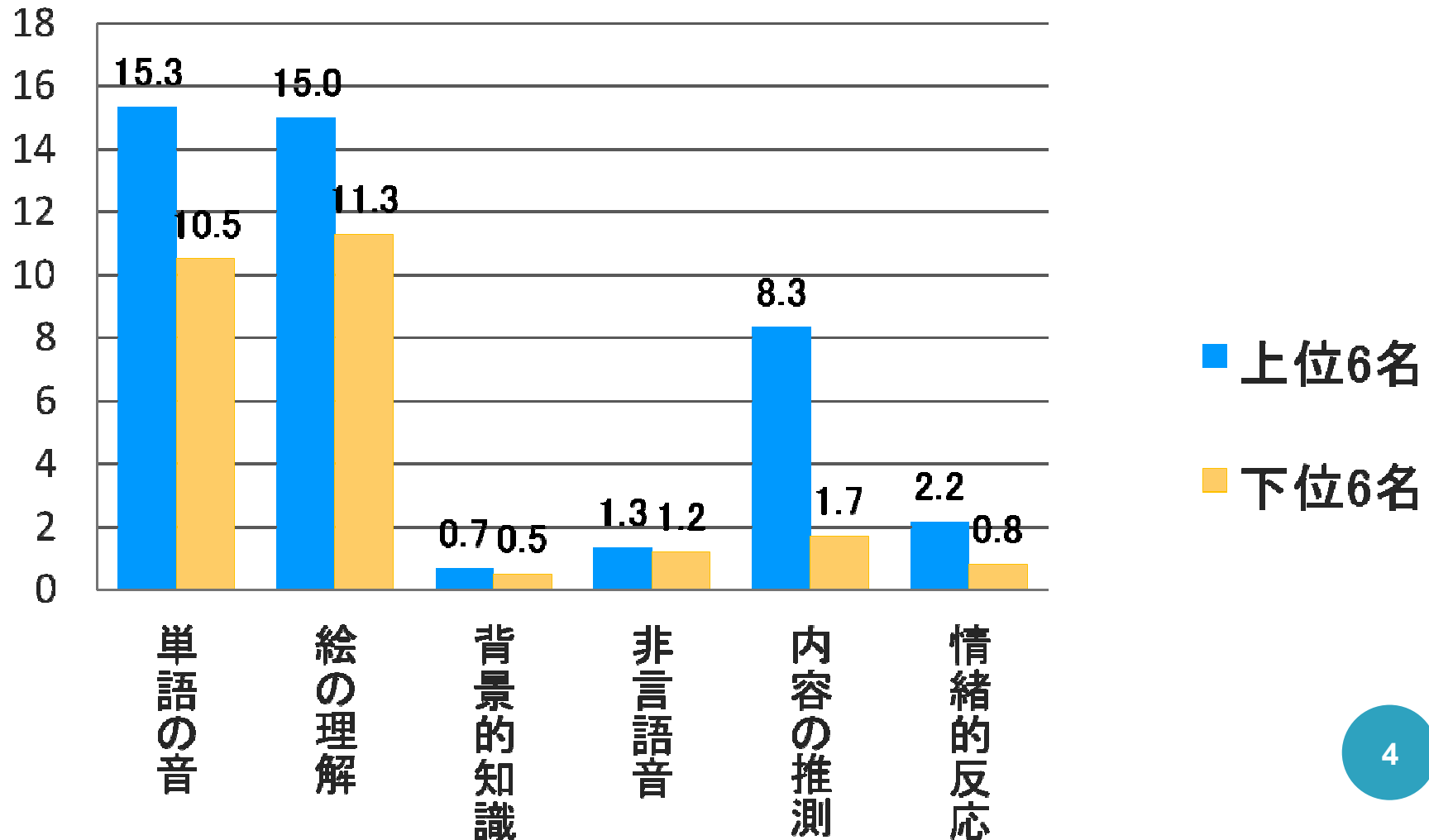
## L2の子どもの絵本の読み聞かせの理解

- 読み聞かせにおける子どもの理解過程は異なる
- 佐藤と佐藤(2008)
- 得意な学習者は絵と共に言語(単語)に注意を向ける
- 前の場面から内容推測を行う(coherent)
- 不得意な学習者は絵により注意を向ける傾向が強い

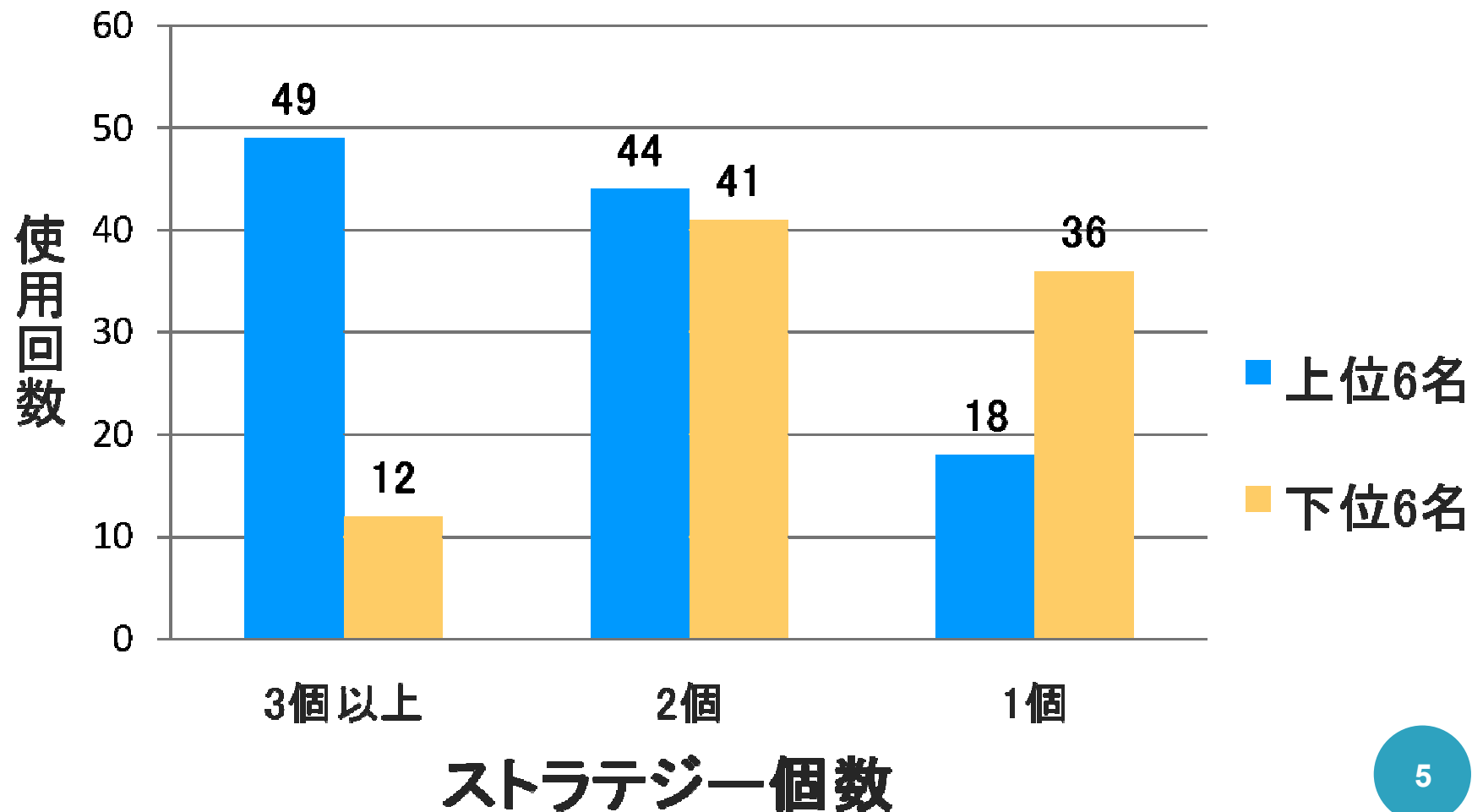
## 研究目的

- ストーリーを理解する過程が異なるときに、内容推測の誤り過程も異なるのか？  
原因や推測誤りのソースはどこにあるのか？

# 図1：上位6名と下位6名の比較 ストラテジー使用頻度



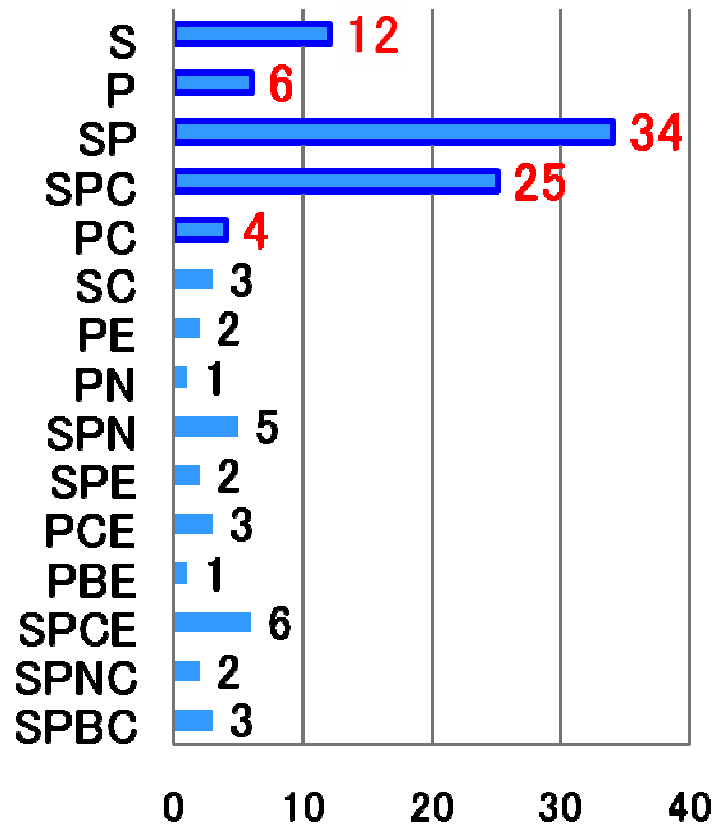
## 図2: 上位6名と下位6名の比較② 一回に使用するストラテジーの個数



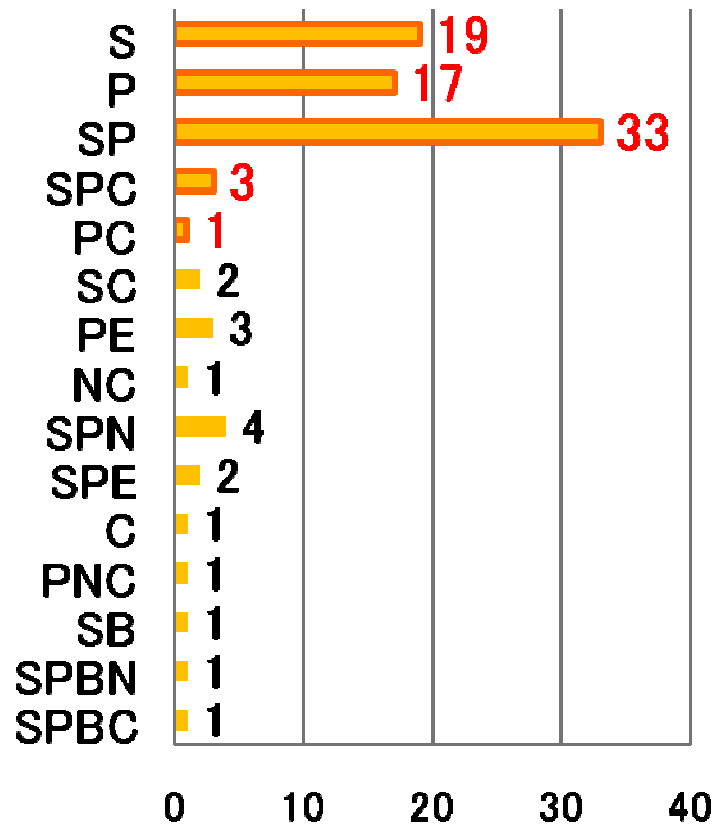
- S→単語の音
- P→絵の理解
- C→内容の推測
- N→非言語音
- B→背景的知識
- E→情緒的反応

### 図3. 上・下位児童のストラテジーの組み合わせ比較

上位6名



下位6名



# 調査

- 1回目:2007年6月
- 2回目:2007年10月
- 場所:町田市公立小学校

# 被験者

## 町田市公立小学校の児童

- 3年生児童(英語学習歴初年度) 9名
  - 5年生児童(英語学習歴2回目) 10名
- ・・・合計19名

調査は個別に面接形式で行う



# 実験方法

## 1. Think Aloudの練習

(絵本: *Five little Monkeys Jumping on the Bed*)

絵本を見せながら1ページずつ指導者が読み、その後、児童に聞こえてきた単語や内容について詳しく答えるよう指示する

例) Block (1986) Think Aloud Method を参照

- どんな内容だったか？
- どうしてそう思ったか？
- 聞こえてきた単語はあったか？
- その単語は以前から知っていたか？



## 2. 本番

(絵本: *Papa, Please Get the Moon for Me.*)

- 慣れてきたら、本番用の絵本を用意し、児童への読み聞かせ風景を録画する
- 指導者は主語と述語の切れ目を明確にし、ゆっくりと情感や抑揚を付けながら読み進める
- 指導者は1ページずつ絵本を読み、児童にページごとに考えたことや思ったこと、聞こえてきた単語、内容など詳しく話すように支持を与える。絵本を読み終えた後、ストーリー内容を尋ねる。

### 3. アンケート調査

#### アンケートを実施する

- ① 主観的理解度を問う質問 1問
- ② 内容理解度を問う質問 5問

# 計測方法

1. 録画したビデオを書き起こし、ストーリーの19場面ごとにおける、児童の理解度を数値化 [A]

- 完全に理解している・・・3点
  - 一部理解している・・・2点
  - いくつかの単語のみ聞き取れている・・・1点
  - 全く理解していない・・・0点
- ・・・57点満点

## 2. アンケートから理解度を数値化する。[B]

① ストーリーの主観的理解度に関する質問・・・4点満点  
ストーリーは理解できましたか？

- ・とてもよくわかった・・・4点
- ・わかった・・・3点
- ・わからない・・・2点
- ・全くわからない・・・1点

② 質問理解度

内容理解にかかわる直接的質問・・・6点満点

Q1.主人公の名前は何でしょう？・・・1点

Q2.他に誰が登場しましたか？・・・2点

Q3.パパは何をしようとしたの？・・・1点

Q4.パパはそれ(Q3の答え)ができましたか？・・・1点

Q5. 物語の最後はどうなりましたか？・・・1点

### 3.ストーリーの19場面ごとに、内容理解に用いたストラテジーを分類し、その総数をカウントする

#### カテゴリー6項目

1. 単語や表現の聞き取り
2. 絵の理解
3. 背景的知識の活用
4. 非言語音の聞き取り
5. 内容推測
6. 情緒的反応

#### 4. 19場面を理解するために使用した総ストラテジーについて、正しく理解に結びついたものと誤りを起こしたものとに分類し、カウントする

- ⇒ 場面を正しく理解している
- × ⇒ 場面を誤って理解している

# 図4. 場面理解度とアンケートによる 主観的・質問理解度の比較[A][B][C]

- ◆ 19場面ごとの理解度
- アンケートからの主観的ストーリー理解度(4点満点)
- ▲ アンケートによる質問理解度(6点満点)

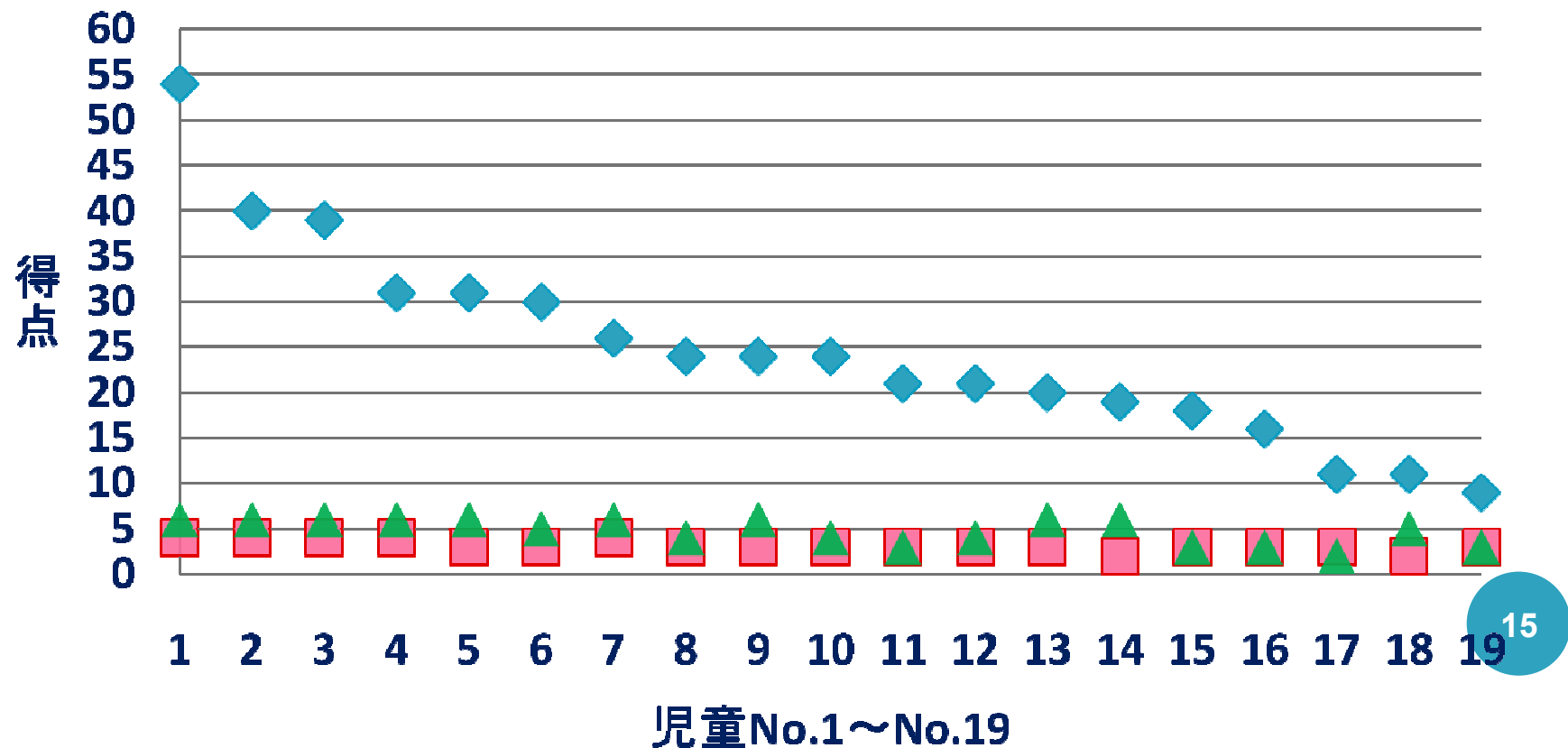
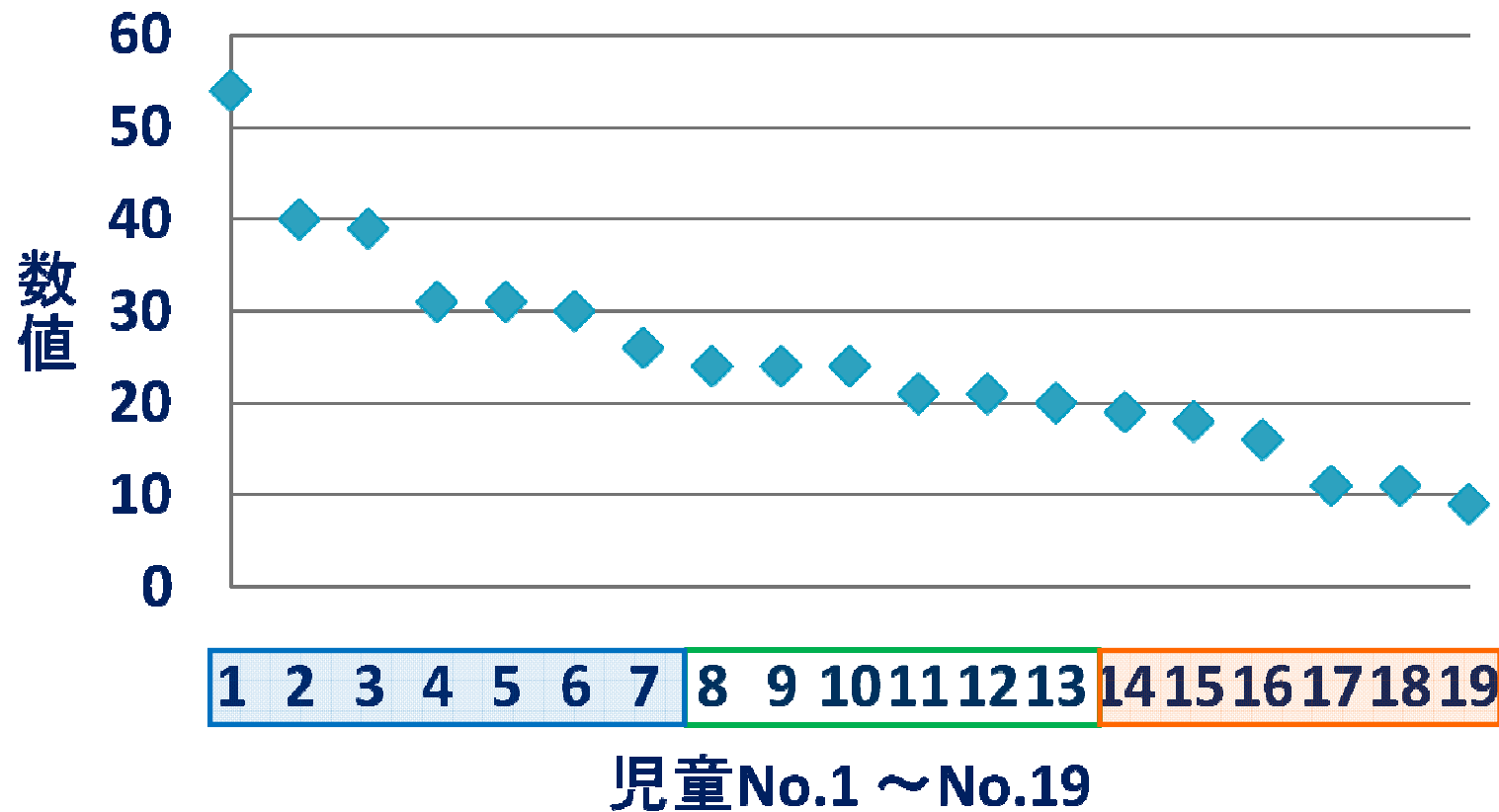


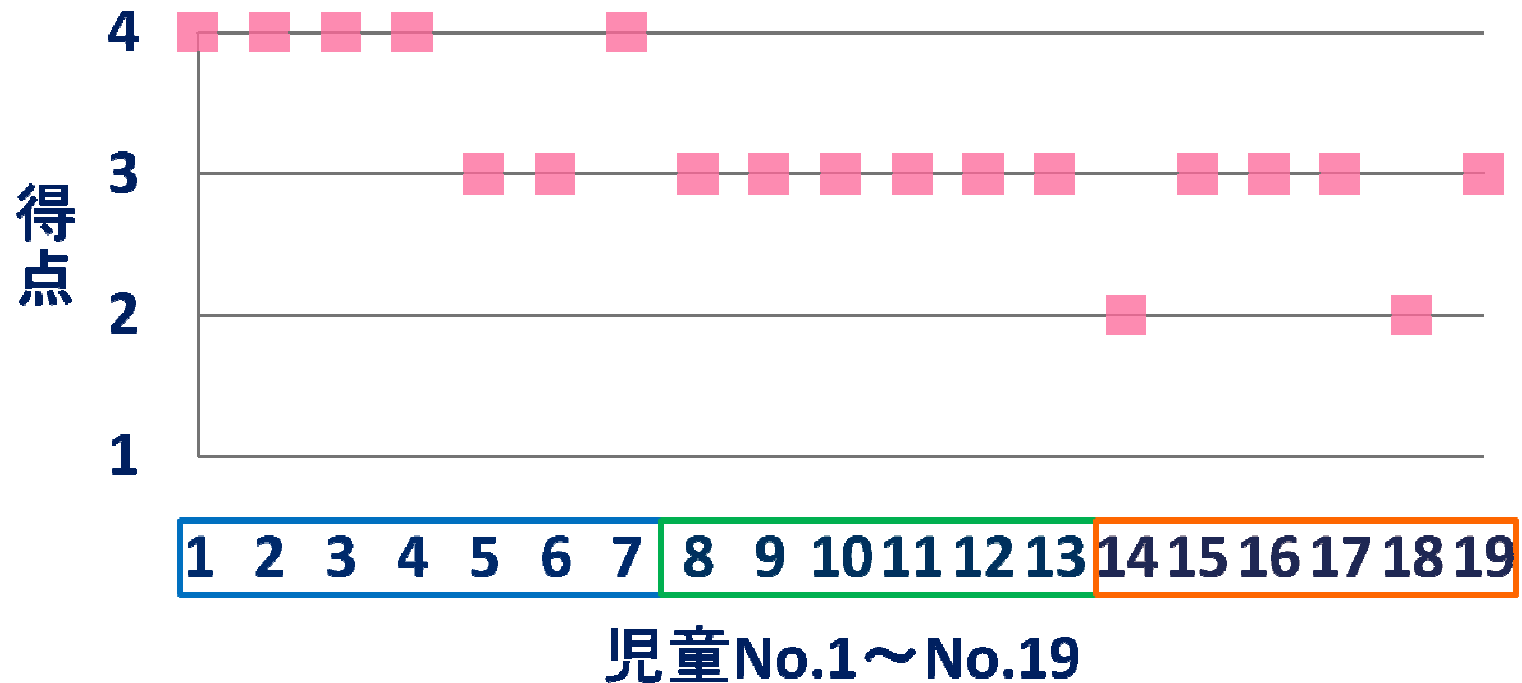
図5. ストーリー19場面ごとの理解度 [A]  
57点満点



- ・ 全体の平均点 ……24.7点
- ・ 平均点……上位35.9点 中位22.3点 下位16点



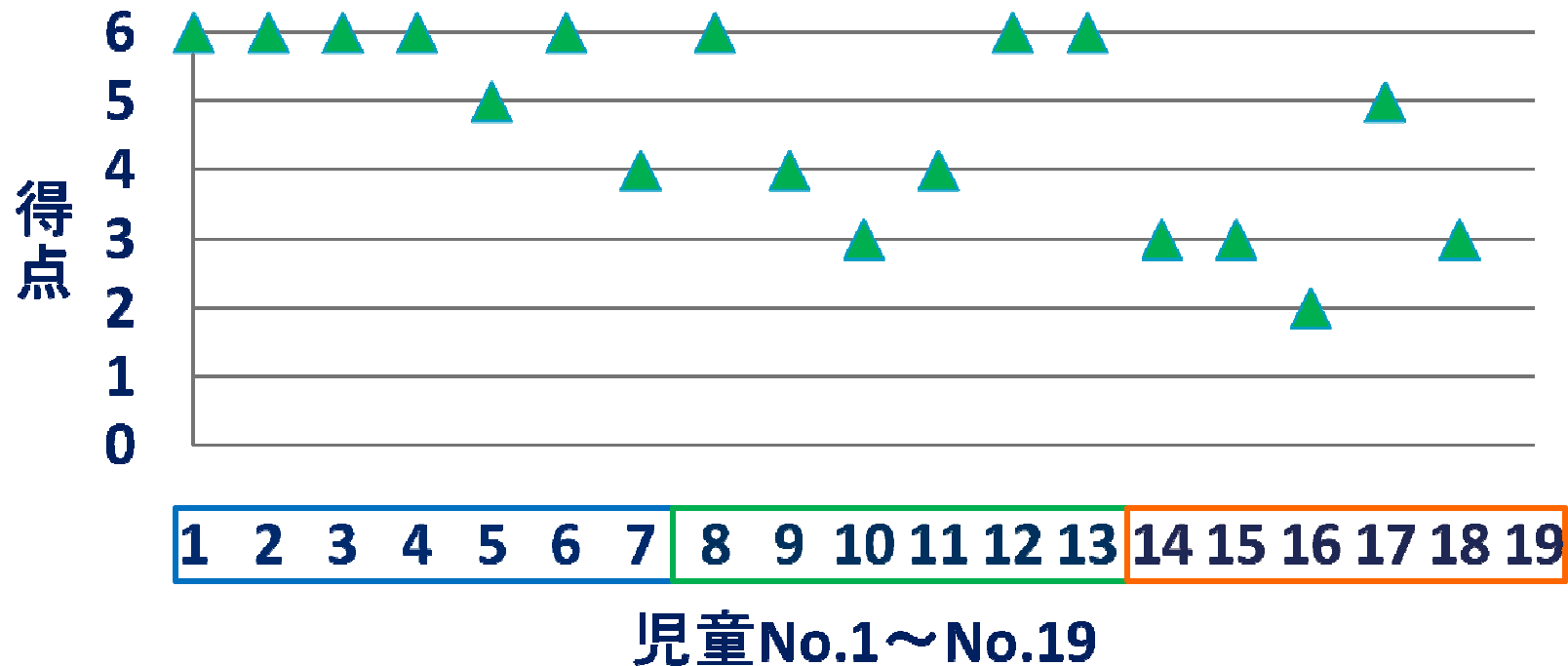
# 図6. アンケートによる 主観的ストーリー理解度(4点満点) [B]



- 全体の平均点・・・3.2点
- 平均点：  
上位3.7 中位3.0 下位2.7

とてもよくわかった・・・4点  
 わかった・・・3点  
 わからない・・・2点  
 全くわからない・・・1点

# 図7. アンケートによる質問理解度 (6点満点) [C]



- 全体の平均点・・・4.7点
- 平均点: 上位5.9点 中位4.5点 下位3.7点

# 図8. 19場面における全児童の 使用ストラテジーと推測誤り回数比較

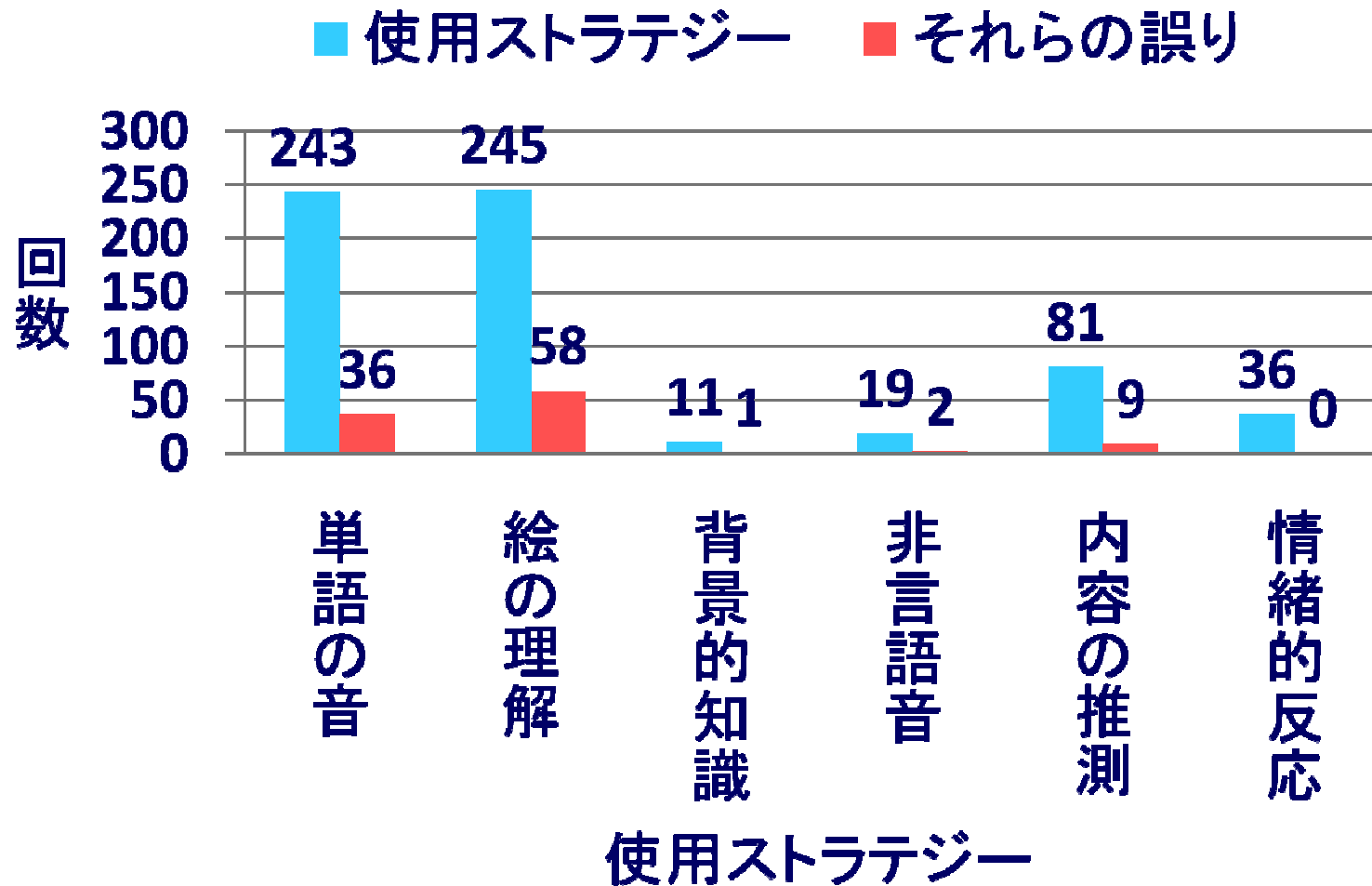


図9 a. 19場面における上・中・下位児童の使用ストラテジー平均回数比較

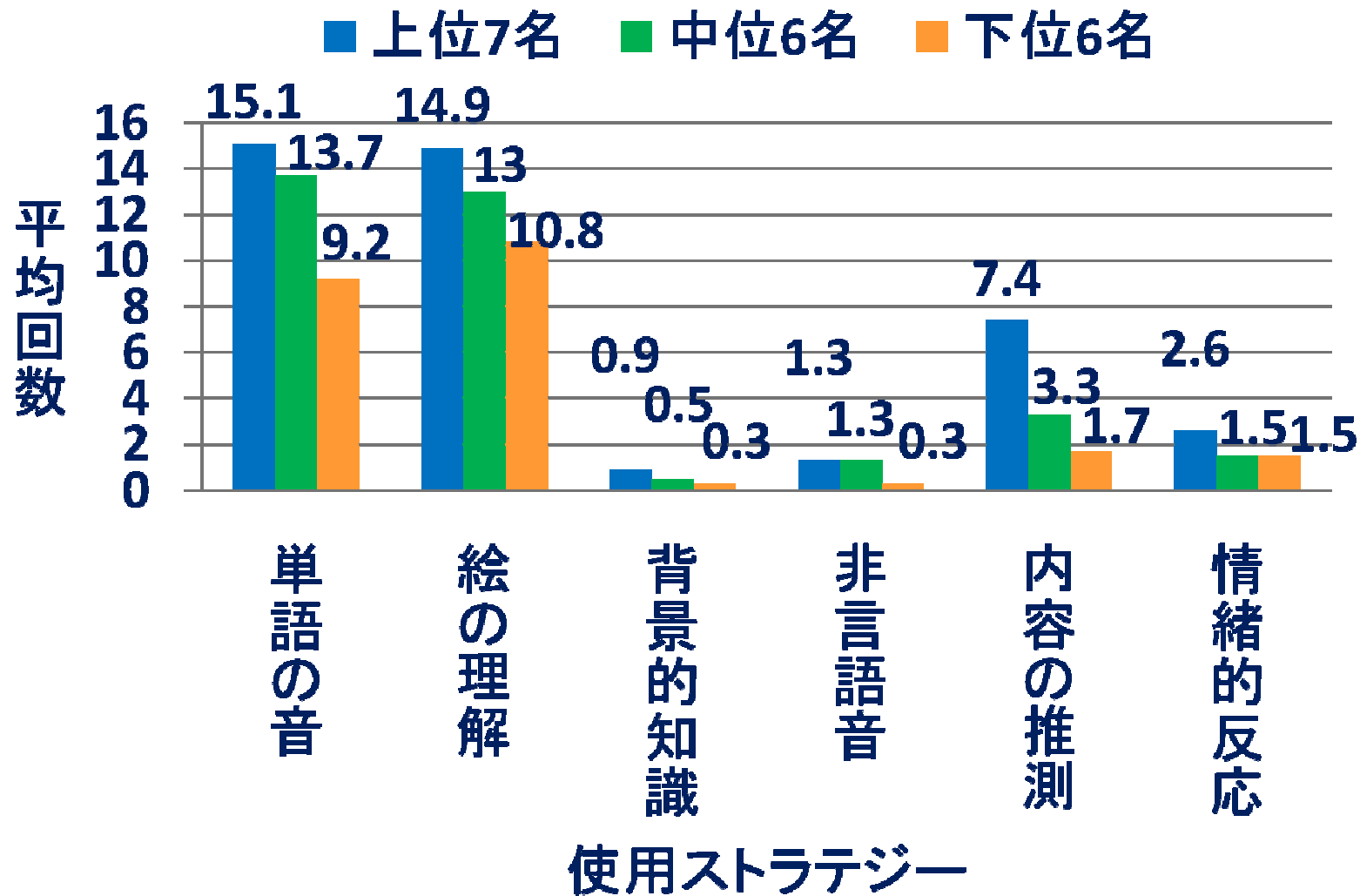
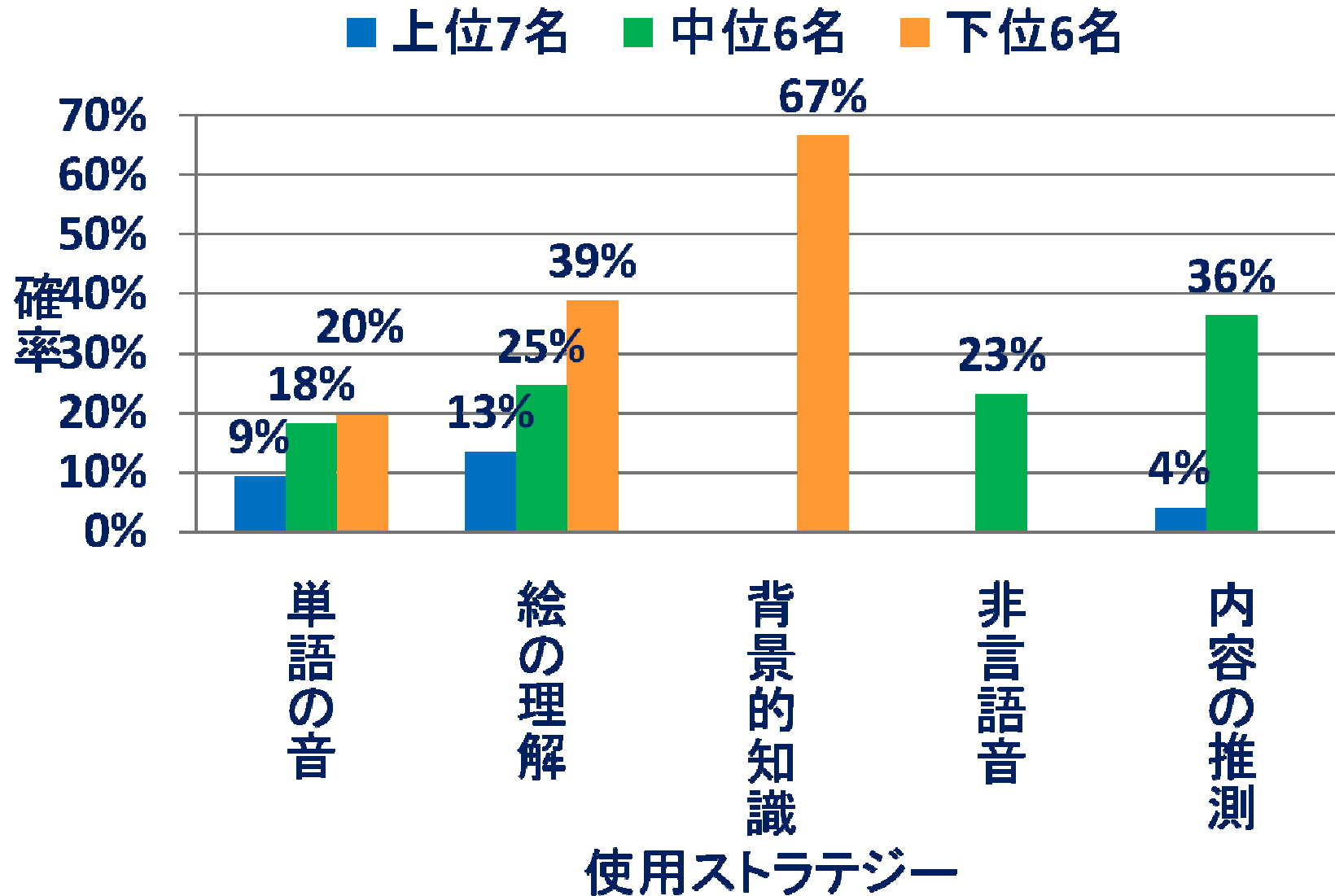


図9. b. 19場面における上・中・下位児童  
推測誤りの確率比較



# ● 中・下位児童に見られる誤り例 ①

## 絵のみからの推測誤り

場面7	Then Papa put the very long ladder on top of the very high mountain.
No.11	梯子を登ってるのが絵でわかる。
No.13	うわっ、登ってるねえ。上に登ってるっていうか、 どんどん行きそう。
No.16	梯子で上の空に登っていくんじゃない。
No.17	何これ！ パパって聞こえて、絵は長い梯子がある。
No.18	パパって聞こえて、登ってるのがわかる。

- 中・上位児童は絵と他のストラテジーを組み合わせて推測

場面7	Then Papa put the very long ladder on top of the very high mountain.
No.2	<p>多分お父さんが長い梯子を山にかけてお月様を取りに行く。Papa , long ladder, very high mountainとか聞こえたから。</p> <p>← 絵・単語の音から推測</p>
No.9	<p>梯子を担いでここまで来たから、一番下をこの大きな山に立ててね、たぶん登っていこうとしている。</p> <p>Papaとladder? さっきも聞こえたやつがこれで(梯子を指す)、mountainって、聞こえた。</p> <p>← 絵・単語の音・内容推測から推測</p>

## ●中位・下位児童に見られる誤り例 ② 単語の音の聞き誤り

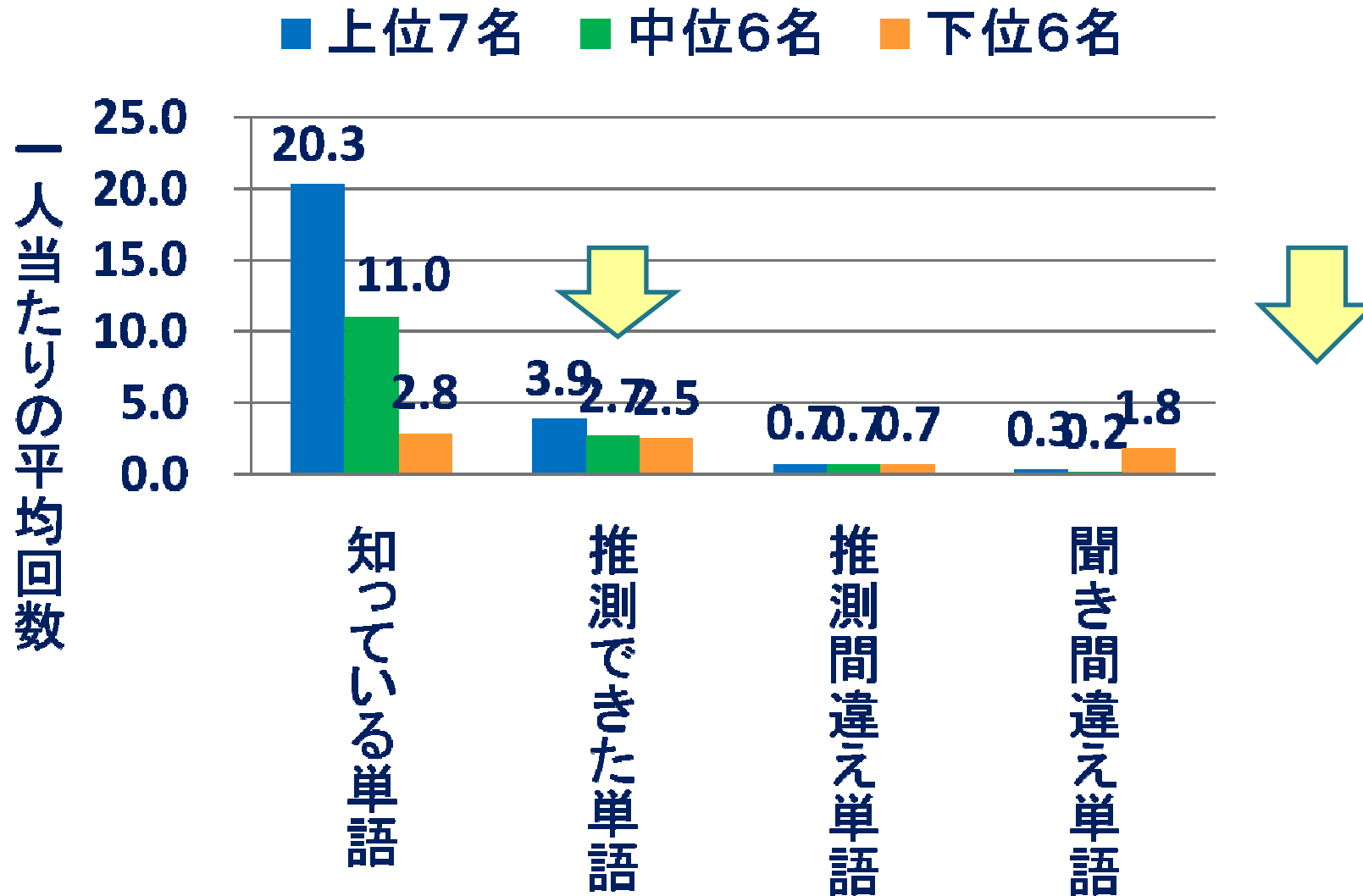
Monica	“I wish I could play with the moon ” thought <b>Monica</b> , and reached for it.
No.15	<b>ハーモニカ</b> みたいな、モニカ！
toward	He carried the very long ladder <b>towards</b> a very high mountain.
No.14	大きな岩みたいな。タワーみたいに聞こえた。タワーみたいに大きくなって思った。
much	But no matter how <b>much</b> she stretched, she could not touch the moon.
No.16	マッチって聞こえたけど、 <b>マッチ棒</b> のマッチ？



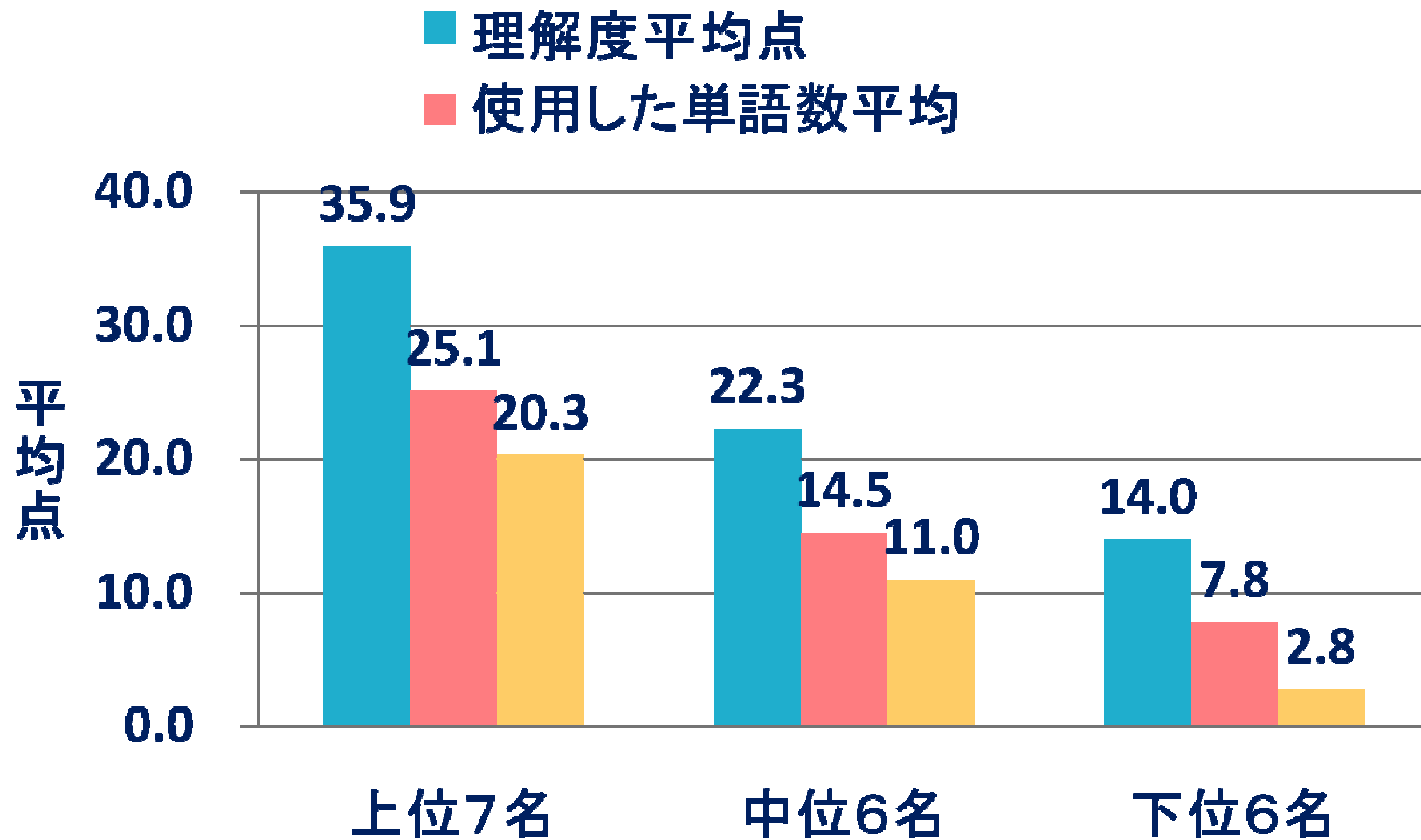
# ●中・上位児童は背景的知識をうまく使って 単語の音を推測

small	And indeed. The moon got <b>smaller</b> and <b>smaller</b> and <b>smaller</b> .
No.2	smallだから、小さく,小さく,小さく? Smallはドラえもんでスモールライトって いうのがあるから小さくだと思った。
final	<b>Finally</b> , Papa go to the moon. “My daughter Monika , would like to play with you ,” said Papa., “but you are much too big.”
No.3	なんかfinalって、 <b>ファイナルアンサー</b> で最後に答えるから・・・ 最後にはパパが月に着いたってことだと思う。
size	When the moon was just the right <b>size</b> , Papa took it.
No.4	う～ん、サイズ? 月が…なんだろう <b>サイズ</b> って洋服の <b>サイズ</b> ? …なんだろう大きさ? 月の大きさが変わったのかな?
ladder	Then Papa put the very long <b>ladder</b> on top of the very high mountain.
No.5	ladderって、梯子のこと? <b>フットサル</b> で足が速くなる練習の時にラダーっていうの使うんだけど、それが梯子みたいでこれと似ているから。
long	Papa got a very <b>long</b> ladder.
No.10	なんかlongがわかったから長い梯子を持ってるからパパが持ってきた。 <b>駄菓子</b> やで <b>longガム</b> ってすごい長いガムがあった。

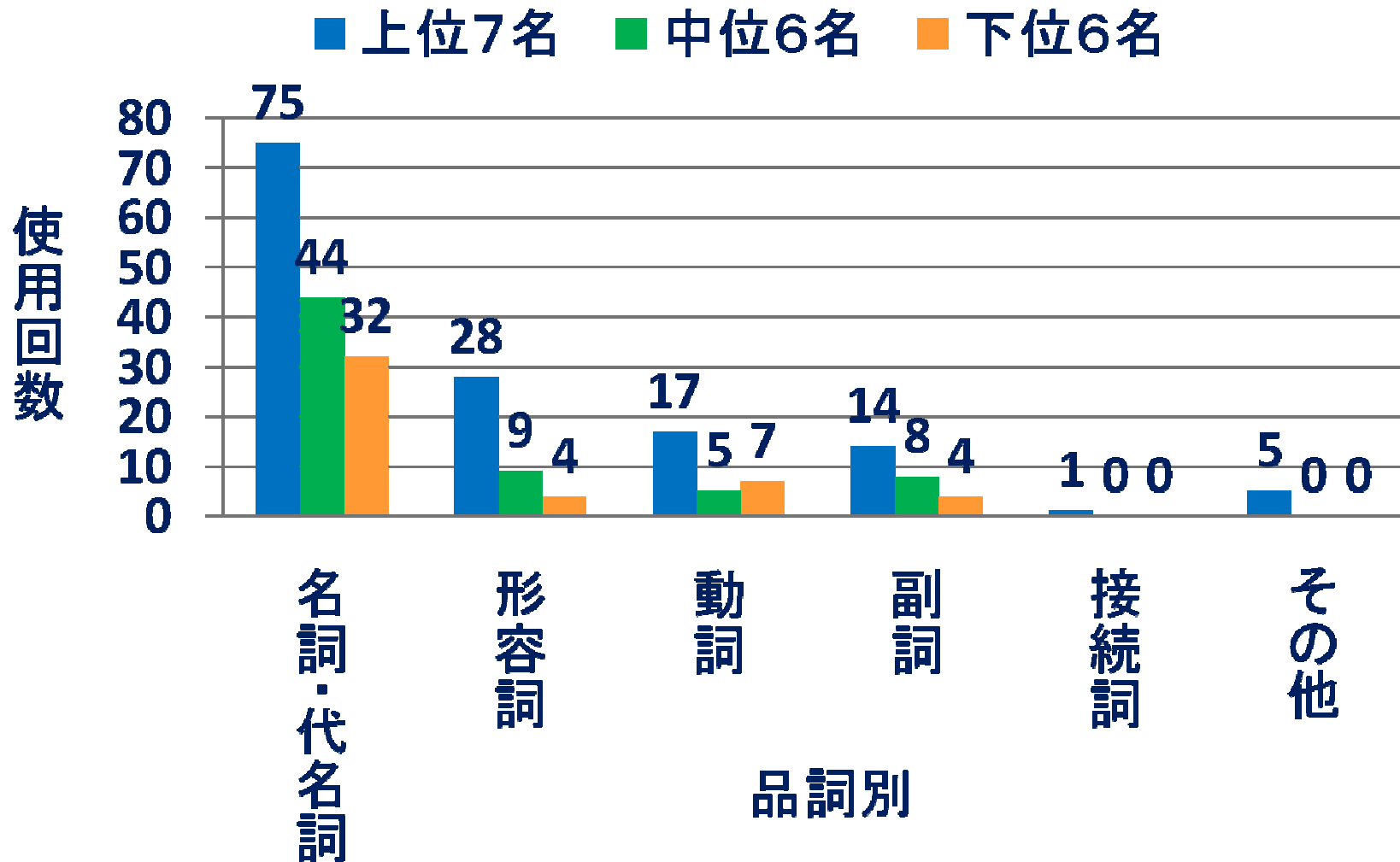
# 図10. 単語の音：一人当たりの種類別平均回数比較（上・中・下位児童）



# 図11. 理解度と使用した単語数・知っている単語数の平均比較(上・中・下位児童)



# 図12. 知っている単語数 品詞別比較 (上・中・下位児童)



## ● 上・中位児童に見られる内容推測誤り例

	Every night I get a little smaller said the moon. “When I am just size, you can take me with you.”
No.1	なんかsmallって、聞こえたから、これ想像だけど、あんなに小さく見えたのにホントに見たらすごく大きかったよって。
No.9	パパが地上のモニカに向かって、月は大きいんだって言ってる。たぶん、地上の下でモニカは待ってて手振って待ってるから。
	“Papa” said Monica to her father, “please get the moon for me.”
No.6	なんか、月を触ってみたいって世話してみたって、パパに言ってる
	when the moon was just the right size, Papa took it..
No.7	想像すると、なんか月から、月の半分を持ってきたぞって感じがする。月を持ってお土産というか、家に持って帰るのかなって、これから。
	Up and up and up he climbed.
No.12	3回あったから、遠い、遠いって感じがして、お父さんは、長～い梯子を登ってるから、月まで遠いって言ってる。

# ● 特徴 1

## □ Cain et.al.(2001)より

- 得意な理解者は推測をよく行う
  - ⇒ L2小学生にも見られる(常に内容訂正)
- 不得意な理解者は推測量が少ない、推測に必要な情報の記憶ができない、推測の必要性を感じていない
  - ⇒ L2小学生も内容推測の数は少ない
  - ⇒ L2小学生が前の場面を覚えていない

## ● 特徴2

### □ Barnes et.al.(1996)より

- たやすくアクセスできる知識は、推測に使いやすい  
⇒ L2小学生も、絵や単語を元にして推測する傾向

### □ Cain et. Al.(2001)より

- 不得意な理解者は、推測に必要な情報をセレクトできない、リスニングが出来にくい可能性もあり  
⇒ L2小学生も、聞くことと推測能力が密接な関係がある可能が強い

# ● 結論 1

①小学生ESLとNativeの小学生の理解過程は類似する

## ・ 不得意な理解者

Native ⇒ 1. たやすくアクセスできる知識から推測  
2. リスニング能力が低い・よく聞けない  
3. 推測量が少ない・必要な知識が覚えられない・推測に必要な情報をセレクトできない

ESL ⇒ 1. 絵のみからの推測が多く、間違いが多い  
2. 単語の聞き間違いが多い  
3. 推測量が少ない・内容に無関係な絵や単語の音に注目し、首尾一貫していない



## ● 結論2

### ▪ 得意な理解者

Native ⇒ 背景的知識と、テキスト情報を統合して推測

小学生ESL ⇒

1. 内容推測間違いは起こすが、いくつかのストラテジーを組み合わせるために、ストーリーから大幅にかけ離れた内容推測は行わない。
2. 単語数が多い・形容詞や動詞の既知語があり、単語からの推測誤りが起こりにくい。
3. 単語、絵、前の場面の内容から内容推測を行い、推測の頻度は高く、誤る回数が少ない。



- 小学生ESLの絵本読みの理解過程は小学生のNativeの理解過程と類似している。
- 誤り傾向に、得意な学習者と不得意な学習者で違いが見られる。ソースがやや異なる。